

待って獲る新しい漁具の研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上野, 康弘 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009269

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



待って獲る新しい漁具の開発

水産業システム研究センター

研究の背景・目的

燃料価格の高騰が続いており、今後も高くなる可能性があります。漁具を大きく動かして魚群を捕捉するトロールやまき網などの既存の沖合漁業の漁法では、燃料費が賄えなくなる可能性があります。そこで、燃料消費を大幅に削減するため、沖合域においてきわめて低速で曳いて漁獲を行う漁具を考えました。

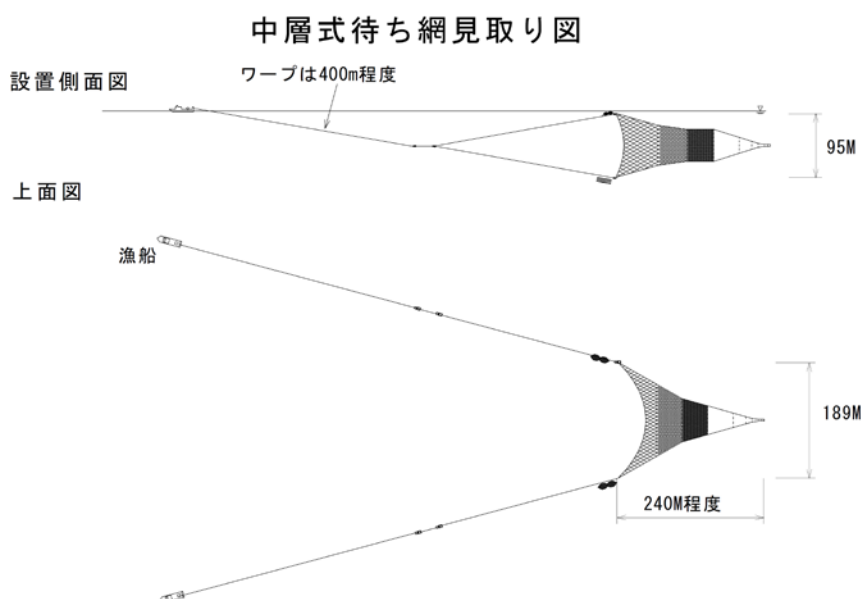
研究成果

中層性魚類の省エネ漁獲を目的として、沖合中層で超大型のトロールタイプの漁具（網口幅 189m、網口高さ 95m、身網全長 240m）を積極的に曳航することなく、遅い対水速度で広く展開し、移動中の魚群を待ち受けて漁獲する漁具を考えました。目合や対水速度、曳網角度を変えて、曳網した場合の網の形状と漁具抵抗を、漁具形状・荷重シミュレータ NaLA を用いて推定しました。その結果、対水速度が 0.4 ノットと非常に低速でも網の拡がりはきわめて良好で、漁具抵抗がきわめて小さくなることが分かりました。

波及効果

この結果は、燃料消費を抑えつつ、超大型の網を海中に広く展開できることを示しています。将来はこのタイプの省エネ漁具により表中層魚を大量に漁獲することができるようになるかもしれません。現在、この研究結果を基に、さらに網口を大きくして、網の形状のよい漁獲効率の高い漁具を設計しようとしています。

（本研究は日東製網株式会社および近畿大学農学部との協力により行っています。）



（水産業システム研究センター：上野康弘）